令和４年度第３回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日　時】	令和 4 年 7 月 15 日（金）　18 時 30 分　～　19 時 40 分
【会　場】	黒石ふれあいセンター
【出席者】	○篠﨑市長 ○地区代表者（5 人） 黒石地区子ども会育成連絡協議会会長　小野　荘二 黒石地区亀齢クラブ連絡協議会会長　石田　博和 ゆめプラン黒石次世代部会統括部長　杉永　美佐子 黒石地区コミュニティ推進協議会理事　中村　文健 小畑領自治会会長　内田　容子 ○総合政策部次長 ○事務局（広報広聴課）
【概　要】	1　開会 2　出席者自己紹介 3　参加者と市長との意見交換 4　閉会

【参加者と市長との意見交換】

○未来を拓く人を育む

【子ども会育成連絡協議会会長】

・未来を拓くには、幼少期から地区に馴染むことが必要で、就職や勉強のため一時宇部を離れても、やっぱり宇部が良いとの思い出づくりが必要だと思う。ついては、子ども会での小野の茶畑見学等の行事に、貸切バスの助成をお願いしたい。

【市長】

・幼少期から子ども達が地区に馴染むことが必要なのは同じ思いだ。子ども達に、宇部市でいろんな経験・体験をして思い出を作って欲しいと考えている。思い出があると、このまちが好きになる。この思い出を作ってもらえるのが、子ども会のいいところだと考えている。

・行事等に対する助成については、地区子連の要望を市子連に伝えていただき、市子連から市にご相談いただきたい。

・子ども会に入らない理由はどのようなものがあるか。

【子ども会育成連絡協議会会長】

・保護者側の問題が大きいと思う。

【市長】

・共働きの方が多い時代であり、子ども会のルールを今の時代に合わせていくことも必要だと考えている。大切なのは、お子さんとご家族、周りにいる方々のご意見である。ぜひご意見をいただき、ヒアリングについても市がお手伝いしたいと思っている。

【子ども会育成連絡協議会会長】

・議員や市長が、どんな活動をしているかを知ることが肝要と思う。 ついては、議会見学や市長との面談等を考えている。

【市長】

・ぜひ市長室にお越しいただければと思う。

・議員や市長が何をやっているのか、知っていただきたいと考えている。

〇その他

【子ども会育成連絡協議会会長】

・防災スピーカーは機能していないのではないか。原の防災スピーカーが何とか聞こえる程度で、住居では全く聞こえない。一方で、厚東川ダム放流サイレンは、良く聞こえるので、サイレンにしてはどうか。防災ラジオは、大変よく聞こえる。

【市長】

・防災スピーカーは、風向き、天候に左右される。いざという時は、スマートフォン、テレビ、防災ラジオ等、何らかの手段を通じて情報が手に入れることが大切である。

・防災スピーカーは、外を歩いている人などに情報を届ける一つの手法である。防災スピーカーで情報が流れる前に、サイレンが鳴る。サイレンが鳴ったら何かあると考えて、テレビを見るなどの意識を持っていただきたい。また、いざというときに情報が手に入るよう、改善を続けていきたい。

〇用水路沿いの遊歩道整備（歩道化）について

【亀齢クラブ連絡協議会会長】

・新東割橋西詰（山本クリニック南側）～すいこ伝前の用水路沿いの通行遮断部を解消して、歩行用（できれば自転車通行可）に整備し、安全な通路を確保できないか。

・部分的に歩ける所があるが、少し歩くと前に進めない所が何か所もある。用水路そのものを暗渠化することができないものか。

【市長】

・用水路は、水利組合が管理しており、年３回、土砂の除去など、維持管理活動をされている。この通りができた時と現在では、周辺の田園、建築物などの状況は大きく変わってきている。

・水利組合を含む地域の方のご意見を伺いながら、歩道整備の検討を始めたいと考えている。

〇子ども会について

【ゆめプラン黒石次世代部会統括部長】

・子ども会の加入率が低下する中で、子ども達の健全育成のために、地域でできることを考えていきたい。市にも協力していただきたい。

・育成者を含め市内の子ども会の加入者数は、令和3年度は3,700人、令和4年度当初は2,700人だっ
た。皆さんの協力により4月以降、約200人の追加があり、徐々に加入者が増えている。

・働き方が変わってきたことにより、多くの保護者が役員になることに負担感を持っていると感じる。

・保護者は、子ども会に参加して手伝うことが困難な状況になってきていると思うので、地域で何かできることはしたいと考えている。

【市長】

・保護者の働き方の変化により、子ども会の状況も変わっている。今の保護者が子ども会に何を求めているのかなど、調査したい。

・今、市で考えているのが「地域活動の日」である。「地域活動の日」は、子ども会等の地域活動に参加するなど、地域活動へつながればと考えている。

【子ども会育成連絡協議会会長】

・地域活動の日は正式に決まっているか。

【市長】

・市議会に伝え、商工会議所等に協力等を依頼している状況である。正式に決まればお知らせする。

〇教育支援策について

【コミュニティ推進協議会理事】

・防府市では今年4月から、戦後の混乱期などで、中学校を卒業できなかった人の教育支援のために、ボランティアが自主夜間中学を開校している。生徒が20人弱登録しており、ボランティアは私も含め20人程度である。生徒は、中学生から70代までで、目が輝いており、雰囲気も良く、ボランティアとして参加して良かったと思っている。

・国勢調査の結果、山口県内に中学校を卒業できなかった人が約8,000人いることがわかった。県教委では、公立の夜間中学のニーズを調査するという動きがある。宇部市では、教育を受けられなかった人への支援策を考えているか。

【市長】

・国勢調査の結果、宇部市は、最終学歴が小学校の方が837人、未就学者が126人で、そのほとんどが85歳以上の方だった。

・困っている方がいたら、必要な福祉のサービスにつなげていくことになる。情報発信の方法について検討したい。

【コミュニティ推進協議会理事】
・防府市では、行政の支援を受ける前に、自主夜間中学を開校された経緯がある。
【市長】
・まずは、福祉の観点から、未就学者への支援を考えたい。

〇地域運営について
【小畑領自治会会長】
・昨年、一昨年とコミュニティ推進委員会事務局の事務員として勤務した。現在は、学校運営協議会、福祉委員を担っている。ほとんどの団体の事務局は、ふれあいセンターになっている。
・ふれあいセンターが核、コミュニティ推進協議会が中心となって地域運営をすることが最善と思うが、コミュニティ推進協議会会長は常駐しているわけでない。その補助役をふれあいセンター館長に担ってほしいため、館長を正規職員にしてほしい。地域活動を支えてほしい。
【市長】
・平成 24 年度からふれあいセンター職員の公募を始めた。当時は、館長は地域との密接な関わりを持つため、コミュニケーション能力や独自の課題を達成できる能力が求められたことから、民間公募がはじまったが、従来の市職員が良いとの意見もある。現在、一部の地区で部長級であった正規職員（再任用職員）を配置している。館長の配置については、どのような人材がよいか、ご意見を参考に検討する。

〇その他について
【小畑領自治会会長】
・自治会がバックアップすれば、子ども会の枠にしばられなくても、活動できるのではないか。
【市長】
・自治会によっては、子ども会を廃止し、こどもサークルを立ち上げた事例もある。
・同様の取り組みを各自治会で実施することには、賛否両論の意見があると思う。
【小畑領自治会会長】
・自治会の子ども会の会長も経験しているが、今の子ども会は本来の姿ではなくなっていると思う。
・役員だけが準備するのではなく、子どもから意見を聞き、子どもが行事に関わっていく事が重要だ。そのためには、地域だけでなく、市からの指導もお願いしたい。
【市長】
・子ども会の課題に取り組みながら、自治会のあるべき姿を考えたい。どうしたら参加していただけるのか、その第一歩として、「地域活動の日」を進めている。

【子ども会育成連絡協議会会長】

・空き家が増えている。どのように考えているか。

【市長】

・空き家は個人財産であるため、行政がすぐに対応することが難しい。

・相続が発生した場合、3 年以内に相続登記をしなければならないという国の制度（2024 年 4 月 1 日施行）がようやくできた。ただし、罰則の規定はない。

・市では、空き家に関する情報のプラットホームを作っており、その情報を不動産関係者に早め早めに流通させて、空き家とならない仕組みを整えたので、軌道に乗せたい。また、空き家ができないような仕組みも考えていきたい。